

【解説】これは Tolec という人を通じて、宇宙の Andromeda Council (アンドロメダ評議会) と称するものから送られてくるチャネリング情報のサイトから見つけた、Book II : The Earth Re-born という本の序章である。10 章からなる 130 頁以上に及ぶ大部の資料だが、徹夜してでも早急に読むべきものと思われる。宇宙的な時代の大転換に伴って、我々の身に今、何がどう起ころうとしているかを、事細かに、高次元宇宙から俯瞰するように説明している。UFO や ET の存在をいまだに疑っている人は、これを読んでみればよい。米政府と ET との接触の小史が手際よく述べられていて、目を開かれる。しかし UFO の大船団が我々の上空に、今から地球に起こるであろうことに備えて待機しているという情報は、大多数の人々を驚かせるであろう。この宇宙は、我々よりはるかに進んだ高次元人間に満ち満ちているが、この地球は、3次元という低い次元世界であるがゆえに、情報を遮断された宇宙の孤島のような存在であるらしい。しかし間もなく彼らは、公的に姿を見せようとしているという。「黒船」の宇宙版であろう。

ここに述べられていることは、私の知る限り、他のチャネリング情報と符合する。そして他の情報ではつながらない不明なところが、これによってほぼ完全につながると思う。これは 2013 年の改訂版であり、情報が刻々アップデートされる場所に価値がある。

地球再生——来るべき地球変化への序章

(Book II : The Earth Re-born)

By: Lawrence & Michael Sartorius

私たちは重要な意味をもつ「宇宙的時代」の転換の瀬戸際にいる。だから今この時に、私たちが、知的生命体に満ちた無数の他の世界に取り囲まれているという事実を、十分に知っておくことが重要である。彼らの大多数は、私たち自身の世界より遥かに進歩しており、地球の濃密で物的な「3次元」世界より高い振動率の、より高度な地平/次元に生きている。これらの世界のかなり多くの人たちが、第2次世界大戦以来、見えない状態で我々を取り囲む無数の「母船」に乗り組んで、私たちが4次元の「新しい地球」への「アセンション」を果たすのを、いつ何時でも助けられるように待機して、じっと私たちが観察しているのである。彼らはまた、私たちの銀河系の内部に不幸にもいまだに存在する「暗黒勢力」の、いわれのない侵入あるいは攻撃から、私たちを護るという重要な仕事を果たそうとしている。しかし彼らは決して、私たちの世界に自ら直接介入しようとは考えていない。それは、私たちの特別の要請なしに干渉することは、カルマ（業、因縁）的に間違ったことになるからである。

私たちの（先祖の）大多数は、「探検人種」として、我々の「善悪の宇宙」、すなわち光と闇、ポジティブとネガティブの勢力が永遠に闘う宇宙に内在する、「二重性」を克服/解決する惑星の実験に参加するという、特別の目的をもって地球惑星にやってきた人たちである。この難しい仕事は、実は、私たちがこの「二重性実験」に参加するときに結んだ、より高いレベルの霊的合意のもとにある他の世界との接触を断ち、「忘却のヴェール」を作ることによって、可能になったものである。そうすることで私たちは、邪魔や不当な外部の干渉なしに、「宇宙の創造者」に代わって、この実験を遂行することができたのだ。ところがこの「ヴェール」は同時に、第2の「ルシファーの反逆」として、20 万年以上にわたって私たちの惑星を「隔離」状態に置くことになった。それはここだけでなく、私たちの地方的サタニア系——「大宇宙ヒエラルキー」支配による天の川銀河/Nebadon の地方宇宙——の36 の他の惑星も同じだった。この「ヴェール」によって、他のすべての周囲世界と、そこに住む人々についての直接の知識から、私たちは完全に接触を断たれるようになった。一方において、このヴェールは、外部から影響を受けないで、善と悪の勢力の二重性の究極の形を試みるという、私たちの特別の惑星の実験に集中するための、絶好の機会を与えることにもなった。私たちは、自分の世界のためだけでなく、他の多くの世界の利益のためにも、新しい解決法を開発するために、この難しい課題を引き受けてきたのだ。その上、この「忘却のヴェール」は、どんな場合にも、私たち地球人の合意した地球惑星実験の外側へ出て、より高い霊的地平の平和へと逃れるというオプションを、不可能にしてきたのである。

より進んだ世界から来た私たちの宇宙同胞は、彼らの存在についての知識を、前世で彼らと直接つながっていた地球人か、または生を繰り返すうちに、チャネリングによって交信する超感覚能力を発達させた人々だけに限定して、与えざるを得なかった。にもかかわらず、私たちの地球外訪問者たちは、近年、私たちの政府やメディアに対して、特に水素爆弾のような原子力兵器の開発と使用の途方もない危険性を警告するために、直接の交信を試みてきた。彼らはまた、一つの大きな歴史時代が終わることによってもたらされる「地球変化」と、「新しい時代」の始まりを、私たちに警告するようになった。各国政府は、私たちに對する彼らの支配を失うことを怖れて、第2次大戦以来、U F O と地球外訪問者については、徹底した隠蔽政策（Cover-Up）を取ってきた。と同時に、世界のメディアに対しては、私たちの上空への彼らの出現についての報告を、完全に無視するように強制してきた。一方で各国政府は、空軍による多くのU F O 目撃のすべてについて秘密文書を作り、これら地球外訪問者のある者たちと密かに交渉しながら、トップ・シークレットの保管庫にしまい込んできた。

アメリカ政府の長年のU F O と地球外人（E T）存在の隠蔽の例として、最近になってやっと、1947 年のよく知られたロズウェル（Roswell）の「空飛ぶ円盤」墜落の、真の秘密

が明かされた——もっともこれは非政府情報源によるものだが。一機の空飛ぶ円盤が 1947 年 7 月 8 日に、ニューメキシコ、ロズウェル近郊に墜落したと報じられたとき、米空軍の回収チームが即刻、墜落現場に送られた。彼らの中には、空軍の上級軍曹看護婦 Matilda MacElroy がいて、彼女は、墜落した航空機の他の二人の乗組員の中で、唯一の E T 生存者を看護する役目を与えられていた。彼女は空軍基地へ戻る途中で、E T 生存者とテレパシーで意思疎通できる唯一の人であることが分かった。他の誰もそれはできなかった。彼女は “Airl” と名付けることになった、この小さな女性 E T と対話する係りとなり、この E T は彼女を通じてしか、どんな質問にも決して答えなかった。16 日間にわたって、基地の図書館から借り出した、あらゆる地球上の主題についての本を用いて、マッケルロイ看護婦から英語を習得した後、エアルは、驚くべきテレパシーによるメッセージを、マッケルロイ看護婦を通じてのみ、伝えるようになり、これは政府の速記者によって書き取られた。

その内容は、宇宙の私たちの領域で昔からずっと活動してきた、「悪の古い帝国」とエアルの呼ぶ者たちの仕業を、詳しく伝えるものだった。幸いにも、彼らの多くはその後解体され取り除かれたが、その残党が「黒い陰謀団」(Dark Cabal) として、この地球上でいまだに活動しているのである。(外部者の手になる「陰の暗黒勢力」のことが、The New Earth-Book I, 10 章の、創造神ホルスのメッセージの中に生々しく描かれている。) 6 週間後にこの E T が死んだ後——それはアメリカ政府の活動員が彼女から事実を聞き出そうと、電気ショックを用いたことが原因となったのだが——マッケルロイ看護婦は事情聴取をされ、米空軍によって退役を強制された。しかしこの混乱の中で彼女は、インタビューの記録の彼女自身のコピーをうまく隠匿していた。これは米政府が所持する「トップ・シークレット」文書の複製で、その存在は決して一般には知らされていないものである。それから 60 年もたつて、マッケルロイ夫人は彼女のコピーを、*The Oz Factor* の著者である Lawrence R. Spencer に送った。彼女が 83 歳で死ぬ少し前のことだった。スペンサー氏は大胆にもこれを *Alien Interview* という本として出版した。(この本は、この Book II の末尾のリンクから PDF 版で読むことができる。)

1954 年 2 月 20-21 日の夜と早朝にかけて、カリフォルニア、パーム・スプリングへの「休暇」中に、アイゼンハワー大統領が「行方不明」となり、ある秘密の面会のために、エドワード空軍基地へ連れ去られた。これが米政府による E T との最初のコンタクトとなり、その後の一連の、他の地球外人種との会合がここから始まることになる。このとき訪問した E T たちは、北欧人種 (Nordic) の風貌であったと言われ、彼らはアイゼンハワー大統領に核兵器競争をやめ、高度に危険な水素爆弾の開発の中止を要請するために、やってきたのだった。ところがアイゼンハワー政府は、ソ連が同じ核武装を続けている限りそれはできないと応答した。この E T 交渉が行われている間に、いろんな他の政府職員が、空港に着陸したさまざまな宇宙船を調べる絶好の機会を得た。

1954年のもっと後に、アイゼンハワー政府とある全く異なったETたちとの、別の面会が行われることになった。彼らは Zeta Reticulians、灰色の皮膚をしているので「グレイ」(Greys)としてよく知られる背徳者的な種族であった。彼らは無毛の身体と、大きな黒く丸い目の大きな頭をもっているが、これは彼らが、彼らより進んだゼータ・レティキューリ仲間と核戦争を起こして地表を汚したので、彼らの惑星の地下に何千年も住まなければならなかったことの結果である。グレイたちは、通常的肉体的な方法で繁殖することがもはやできなくなり、種族を維持するには自分の「クローン」を作るよりほかなくなって、次第に絶滅しつつあった。彼らはまた一般的に言って、愛することのできない自己奉仕的な性格をもっていた。そして地球人のDNA遺伝子を移植することによって、再び肉体的に繁殖することができるようになることを望んでいた。

彼らがホロマン空軍基地に降り立ち、米政府と条約を結んで、自分たちのいくつかのより進んだ技術との交換条件を要求したのは、1954年の後半のことであった。彼らは、自分たちは元々、私たち地球人が Betelgeuse と呼ぶ、オリオン星座のある赤い星を回る惑星に住んでいた者だと言った。彼らは、彼らの惑星が死にかかっており、いつか分からぬが将来は、そこでは生きていけなくなるだろうと述べた。一つの条約が、結果的に彼らと米政府の間で結ばれ、彼らが、彼らの衰えていくDNAを地球人のそれによって組み換えさせてもらう代わりに、彼らの宇宙船の技術と武器を米国に提供することになった。

合意された条約には、この異星人たちは我々の諸問題には干渉せず、我々は彼らの問題には干渉しないことが謳われていた。私たちは見返りに、彼らのこの地球上での存在を秘密にし、広い地下基地諸施設を、ユタ、ニューメキシコ、アリゾナ、およびコロラド州の「4コーナー・エリア」に提供することに合意した。彼らは他のどんな地球国家とも、どんな条約も結んではならなかった。彼らは、ある限られた周期的な原則で、医学的検査と地球人種の発生を観察する目的で人間を誘拐することは許されるが、人間に害を加えてはならず、起こったことの記憶を消した上で、誘拐した場所で、その人を返さなければならないことが合意された。彼らはまた、すべての人間とのコンタクトと被誘拐者のリストを、決まったスケジュールに則って政府に提出することを求められた。ところが40年の期間が過ぎた後も、何か新しい価値ある技術の提供についても、誘拐の量や程度の報告にいても、彼らは約束を守らなかった。これは特に、外科手術実験のために彼らの母船へ運ばれた女性や子供について、また遺伝子コードを取り出すためにしばしば試みられた、家畜を切り取る行為について当てはまることだった。その結果、米国政府は、1990年代の終わりまでにその広い主要な地下基地のほとんどを閉鎖し、期間を限定して、はるかに限られた施設だけでやっていくようにさせた。

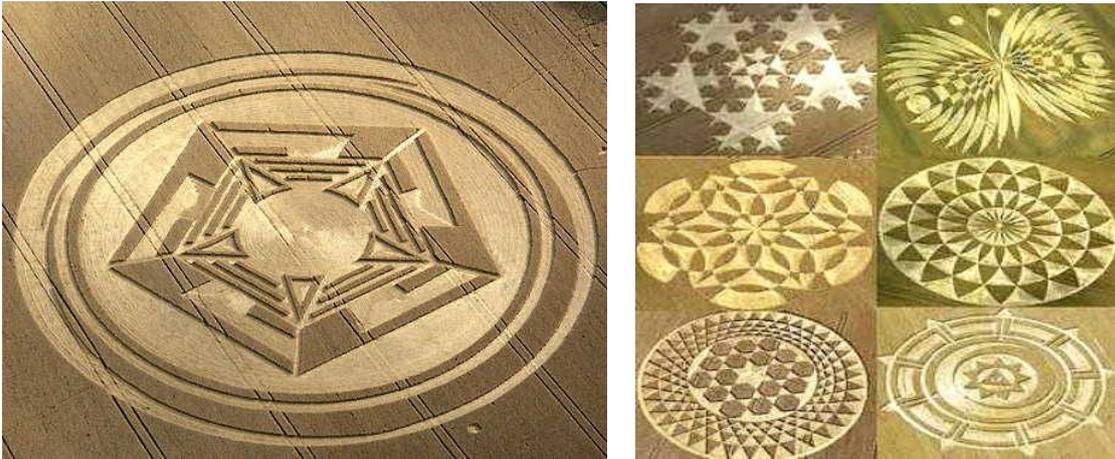
米政府のE Tたちとの会合は、他にも何度も行われている。実際、J・F・ケネディが（地球の「秘密政府」のエージェントによって）暗殺されたその日に、彼はE Tの存在を暴露する重大演説を行う準備をしていた。（彼の予定していた演説については、このリンク（略）で見ることができる。）私たちが知っている通り、この演説は不幸なことに聞くことができなかった。実は、「銀河連盟」（Galactic Federation）が、ケネディの演説の後、あまり時間をおかないで、彼らの宇宙船とともに最初のお目見えをする計画をしていたのだが、この計画は放棄せざるを得なくなったのである。それは間違いなく、地球の未来の発展の方向を転換する、大きなきっかけになるはずであった。

こうした秘密の米政府とのコンタクトの他に、何千何万という非公式の「空飛ぶ円盤」あるいはU F Oの目撃報告があり、また、かなり多くの個人との直接のコンタクトもある。それらは地球の「ライトワーカーズ」（Lightworkers）という限られたサークルにはよく知られるようになったが、背後からの政府コントロールによって、主流メディアは常にこれを全面的に無視してきた。最初の主要な「コンタクティー」の一人はジョージ・アダムスキーであり、彼は1950年代中ごろに、金星人、土星人、火星人の訪問者との直接の接触や、彼らの偵察船に乗って頭上の大きな母船に行ってきた話を詳しく語る、数冊の本を書いた。彼の2冊目の本 *Inside the Space Ships* で、彼はこれらの母船の内部や、その司令官や他の乗組員たちとの会話を、魅力的に詳しく描写している。

その数年後には、ブラジル人のDino Kraspedonもまた、300フィートもある空飛ぶ円盤偵察船の船長との、予期せぬ出会いを描写する本を出版した。この船長は、宇宙旅行と彼らの推進方法についての、多くの有益な科学的情報を彼に与えた。とりわけこの船長は、大気摩擦を防ぐために船の回りの空気を電離させる（ionize）ことによって、偵察船の周囲に真空を作り、我々の大気圏を驚くべきスピードで移動する、彼らの方法を教えてくれた。彼はまた、近づいてくる「地球変化」について私たちに情報を与えてくれた最初の一人である。（クラスペドンとアダムスキーによる *My Contact with Flying Saucers* の大幅な抜粋を、このBook II 末尾のリンクで見ることができる。）

過去16年間、ますます多くのチャネリングによるE Tのメッセージ——特に銀河連盟からのもの（10章のアップデートを見よ）や、より最近はアンドロメダ評議会（Andromeda Council）からのもの（Book II 末尾のリンクを見よ）——が、さまざまな本や専門雑誌に公開されている。

もう一つの、過去20年の間によく知られるようになった地球外現象は、何千という「クロープ・サークル」（ミステリー・サークル）で、これは特にイギリスを中心として、穀物畑に一夜にして忽然と現れ、沢山の美しい、高度に複雑な模様を見せるものである。



こうしたものの写真は、いろいろな本やインターネット上によく記録されている。同様に、「空飛ぶ円盤」すなわち偵察船の多くの写真も本やインターネットに載っている。これらは、宇宙の訪問者が、彼らのより高い振動率を私たちの3Dレベルに落とすことによって、私たちに見えるようにしたものである。頭上には、見えない状態で停船している何千という巨大な母船が存在し、その多くは直径が数百マイル以上のもので、それらはほとんど、3Dの身体の眼には見えない4次元か5次元の振動レベルで作動している。

私たちの宇宙の訪問者たちはこれまで、わずかの地球とのコンタクトに限られていたが、彼らはやがて、地球の主要な政府が「地球外人」の存在について、長く待たれた「ディスクロージャー（情報公開）」アナウンスをするときには、「初回コンタクト」ミッションの一部として、最初の大々的な顔見せを行うであろう。この「初回コンタクト・イベント」は、おそらく地球のいくつかの主要都市上空での、彼らの宇宙船団の大量出現という形を通じてなされるであろう。これに引き続いて彼らは、自分たちについての詳しい情報を与え、「フリー・エネルギー」の利用など、いろんな役に立つ技術を私たちに教えるために、一連の現実の地球着陸を敢行するだろう。しかしそれまでに彼らは、160以上の地球の政府と接触し、彼らが姿を表す前に十分な「ディスクロージャー」アナウンスを行っておくように要請する。もちろん、さまざまな政府は、国民に対する支配力を失うことの怖れのみならず、それ以上に、これまでETやUFOコンタクトを徹底的に隠蔽してきたことが暴かれることから生ずる深刻な事態を考えて、常に二の足を踏んできた。

しかし、少なくともいくつかの政府は、かなりの公的圧力の中で、彼らの秘密のUFOファイルの一部を一般国民に公開し始めている。フランス政府は最近、その秘密のUFOファイルの一部を研究者たちに開放することを約束しており、またイギリス政府も、2008年3月、彼らのUFO記録を、国防省を通じて利用できるようにすると通達した。そこには過去10年に及んでUK全体で記録された、何百ものUFO目撃事件が含まれるだろう。

2008年2月12日、国連は、2007年から2008年の間の、増加していく前例のない数のUFO目撃事件を討議するために、28主要国の代表をニューヨークの国連本部に招いて、秘密の会議を行った。この集会の安全防備は極端なものであった——すべての者が入り口で検査され、ペン、ピン、鍵チェーンといったものがすべて集められ、国連メンバーの安全保証カードまでが一時預かりとなった。この集会には28加盟国の40人以上の代表が出席した。「銀河連盟」からのある文書が配布されたが、そこには、代表を送ったすべての国家がETの存在の十分な情報公開をすることが求められていた。「銀河連盟」はそれに対して、新しい形の「フリー・エネルギー」のような有用な技術を提供するようになっていた。そこで国連が、もしこの申し出に対して対応するとすれば、どう対応するかとの討議がなされた。答えは否定的なものであったと考えられる。同じような文書が後に、「銀河連盟」によって直接、参加した28加盟国の関係省庁へ送られたのである。

第2次大戦以来、「光の銀河連盟」は、私たちの主要政府と科学界に対して、核兵器開発の途方もない危険性を警告しようと試みてきた。彼らは、私たちの水素爆弾の開発について特に憂慮していると言った。水素とは、彼らの説明によると、我々を取り囲むエーテルのすべてに浸透している基本的な「生きた」元素である。水素爆弾の大規模な使用は、私たちの惑星を破壊するだけでなく、「宇宙空間のエーテル」全体に大きな連鎖反応による大火災を起こさせる可能性がある。実は、銀河連盟はこれまでに何回となく、特別に危険な状況において、私たちが核装置を爆発させようとするのを止めるために、介入せざるを得なかったのである。彼らは、それらが使用されようとするその時点で、これを無力化する能力をもっている。

彼らの使命のもう一つの重要な部分は、一つの「大宇宙時代」の終わりに伴って、やがてやってくる「地球変化」に、私たちを注目させることであった。彼らは、2億年の「大宇宙時代」の終わるこの時期は、宇宙のすべて、諸銀河系、諸太陽系が、集団的により高い次元/地平へと一段上昇しなければならない時であることを、私たちに説明してきた。これはまた、私たち自身の太陽リングと天の川銀河が、「宇宙の大中心太陽」(Great Central Sun of the Universe)を廻る長い旅を完成した時点に一致し、地球の2000年続いた黄道12宮「うお座時代」の終わりにも当たっている。「うお座時代」はキリスト誕生の頃に始まり、(古代マヤ歴が予言したように)2012年12月21日に終わる。それは新しい「水瓶座時代」の始まりであり、地球に「平和の黄金時代」をもたらすと長く予言されてきた。

この他にも、来るべき「終わりの時代」についての予言が多くなされており、聖書の「黙示録」はその一つである。これらはキリスト教の聖書では「最後の審判の日」と呼ばれ、「キリスト再臨」の時としても約束されている。近年においては、ますます増えている“ニュー・エイジ”のEsoteric Schools of Higher Spiritual Knowledgeによって、同じメッ

セージが与えられている。

地球惑星の人類は、この太陽系内の他の、人の住む世界とともに、より高い「次元」あるいは振動の地平へと「アセンション」を果たそうとしている。地球の私たちはすでに、過去の濃密で物的な「3次元」振動レベルから、4次元へ向かって上昇を始めている。我々とすべての生き物は、強力なより高い「天上の」エネルギーの流入によって、徐々にアップ・グレードされ、いま3.52Dを超えようとしており、まもなく更に進んでなだらかに4次元世界に入ろうとしている。2012年12月21日の地球人類のアセンションに続く、4次元地球惑星としての一時期の後、私たちは更に上昇して、実在する5次元の地球へと移行しようとしている。アセンションの時期の地球の住人で、5次元にアSENDする用意のできている人々は、自らその5次元の地球へ移行するだろう——すでに私たちの死後の4次元の“Summerlands”霊的地平にいた者たちとともに。

この地球に下りて働き教えている、進歩した「ライトワーカーズ」の大多数は、彼ら自身、他の惑星や恒星系から“Starseeds”（星の種）としてここへ来ている人々である。彼らはすでに、より高い次元のより進んだ世界に住んだ経験があるので、このようなアセンションは彼らにとっては、特別喜ぶほどのことではない。それに対して、この「種子惑星」(Seed Planet)で、新しい人間の魂を目指して、長い進化のアセンションに踏み出した多くのより若い魂たちは、4次元レベルへの移行の心構えができていないかもしれない。そういう人々は銀河連盟によって、3次元振動レベルを維持することができる他の世界へ移住させられるであろう。

しかしこの地球惑星は、振動的な再組織を通過することが絶対的に必要であり、その上、最悪の環境的なゴミ屑と、現在の住人たちのもたらした破壊的な効果を、その表面から一掃しなければならない。なぜなら、それはすべて、より高い次元の層にネガティブな効果を与えることになり、その層は基本的に3Dの地核を基盤にしているからである。この仕事は銀河連盟の軍 (Forces) が引き受けることになるだろう。彼らの技術なら、少なくとも2, 3年以内にこれを果たすことができる。この惑星大清掃の期間中、3Dの表面の若干の領域は、何らかのかなりの激動を経験しなければならないかもしれない。

しかし、基本的な3Dレベルをすでに超えた我々大多数の者は、その大破壊を経験しないであろう。なぜなら彼らは、“Stasis”（静止状態）とも呼ばれる、動きの停止した状態 (suspended animation) に、その時すでに置かれているであろうからである。しかし激しく破壊されるような領域にいる人々は、銀河連盟の偵察船によってすくい上げられ、一定期間、頭上の母船に収容されるであろう。危険な地域にいる他の人々は、別の選択として、地球内部の空洞の「内なる地球」に下ろされることもできる。これは“Aghartha”と呼ば

れる、実在する5次元文明の本拠地で、3D表面の大浄化に影響を受けることはない。この、現在に至るまで私たち表面居住者には隠されていた古代文明は、地球の虚ろな内部、地球の厚さ800マイルの地殻の下側で、進歩した、ほとんど完璧な生活を営んでいる。ここには、緑豊かな風景の自然のままの環境、川、湖、水晶のような都市があり、そのすべては、この地球惑星のまさに中心にある、高濃度（高次元）の、水晶のような核として輝く、それ自体の内なる太陽に照らされている。（「内部地球」についての更なる情報は、このBook IIの最後にある *The Inner Earth & Realm of Aghartha* へのリンクで読むことができる。）

その時になって4次元や5次元へのアセンションの準備ができていない人々は、したがって、ある実在する3次元レベルへと移動させられるであろう。そこで彼らは、新しい宇宙時代が始まるまで、最長で26,000年続く3次元の物的進化の、ひとめぐりを新しく始めなければならないかもしれない。いまだに、低い3次元振動にしっかり根を下ろし、激しい感情を制御できず、他者の犠牲の上に自分の利益だけを追求する人々は、どっちみち、4次元のより高い振動には耐えられないであろう。そこでは彼らは、耐えられない不快さを経験するだけで、多くの制御できぬ感情や、低いレベルの欲望に打ち克つことを学ぶというような、死命に関わる進化の教訓を学ぶことはできないであろう。

より高い次元へ移行しようという意欲をもつ人々は、他者を犠牲にした純粋な私欲のような動機付けを改めることに、努力を集中しなければならない。彼らは、自分の利益にもつぱら集中するという物質的な「生き残り様式」と、そこから生ずる競争的个人主義や他者支配への傾向を、断ち切らねばならない。彼らは、純粋な私利だけを動機とするのではなく、他者への非利己的な奉仕という新しい態度を身につけなければならない。彼らが究極的に学ばなければならないのは、協調の精神、相互の寛容、他者の欠陥の受容といったものから生まれる、他者への「無条件の愛」である。

私たちはもしかすると、この太陽系の内部に「もう一つの太陽」をもつようになるかもしれない。Christ Michael は、木星に「火がついて」(ignition) より明るい「光の新星」になるだろうと言っている。この新しい「光エネルギー」の源は、地球の磁気反転を起こし、その間、地球はしばらく停止し、自転の方向が逆になることになる。そのとき太陽は西から昇る！ この過程は、何らかのかなり大きな3D地表の変化を惹起し、地球の極軸におそらく5度の変化が生じて、何らかの大きな地震、極端に激しい風、津波、洪水の引き金となる可能性がある。

このような地球変化が過去に、この地球惑星に起こったことは、地質学的に十分な証拠がある。大陸の地塊が丸ごと海の底に沈んだり、海が引き上げられて、現在の最も高い山脈

の一部になっている。貝殻や魚の骨格が、ヒマラヤやアンデス山脈の高地に見つかっている。メキシコからアラスカへかけてのアメリカの大平原は、海底であったことが分かっており、今日のアメリカの東海岸は現在のアパラチア山脈の海岸線だった。北極と南極もまた、急激に新しい場所へ動いたことが知られていて、地表と気象の劇的な変化の証拠が残っている。このことの一面が最初に発見されたのは、1799年、シベリアのツンドラ地帯でマンモスの凍結死体が発掘されたとき、彼らの胃の中に、通常は南数千マイルの熱帯地方にしかない、食べられたばかりの草や木の葉が見つかったときだった。また、かつての熱帯のサンゴ礁が、今は北極圏となっているスピッツェンのような北の地で発見されている。南極大陸で見つかる石炭層も、この地域がかつては赤道の森林の覆われていたことを示している。

私たちはまた、母なる大地/ガイアが、彼女自体、この惑星に魂を与える高度に進化した精神（霊）であったことに気付かなければならない。彼女はいま、彼女の3D表面に住む者たちが4次元と5次元へ移行する、長く願われたアセンションが起こるのを、今か今かと待っている。彼女は今日までずっと、低い進化段階の、好戦的で混迷する人類を支えるという長く苦痛に満ちた仕事を、彼女の天的な奉仕の「契約」の一部として続けてきたのである。しかしその彼女も、人間がその表面に蓄積した過去のすべての汚染、損傷、ゴミ屑を、彼女の3D惑星の核から浄化しなければならない。彼女の地殻内での多くの地下爆発や、ますます増加する人間の石油の抜き取りもまた、彼女に3Dの物理的な苦痛を与えてきた。石油は実は、彼女の惑星的肉体の「命の血液」そのものであり、地殻プレートに潤滑油を与え、それらを正しく組み合わせるのを助けるシステムの一部をなしているのである。2つの大きな大陸プレートの交差する場所にこの物質が不足していたことが、2004年12月の巨大なスマトラ沖の地震と津波の原因となった。

人類はいま、過去のすべてのネガティブな「カルマ」を、4次元あるいは5次元世界へアセンションする前に、消しておくという作業をしておかなければならない。この「時代の終わり」の時に私たちは、過去において私たちが害を与えた人々との、すべてのカルマの負債を清算すると同時に、過去において私たちに不当を働いたと考えられる人々を、許しておかなければならない。何千年にもわたる生まれ変わりを通じて蓄えられ、私たちのDNAの内部や魂の記憶に深い傷として残っている、多くの長く抑圧されてきた感情的な傷や歴史的怨恨を、いまこそ表面に引き出し、解決し、最終的に変容させなければならない。

今この時期、過去のカルマのこうした解消が、多くの過去の歴史的恨みのわだかまる場所で、世界的な活動として進行している多くの様子を、私たちは現実に見ることができる。これは特に、今日の中東の内部の葛藤において見ることができる。ここでは、最初、十字軍の時代に起こり、決して正しく解決されなかった、古いキリスト教とイスラム教の葛藤

が、再び表面に現れてきているのである。

現在、大きな宇宙的時代の終末に伴って、私たちの銀河系内部のすべての「暗黒勢力」の、「天のヒエラルキー」による大掃除が行われつつある。この暗黒勢力の大部分は、「大空虚」(Grand Void) 内部の完全に腐敗した「大宇宙創造」から起こった、特別に悪なる暗黒の横行から来たものである。それは何百万年も前に、私たちを取り巻く Orvonton の「第7超宇宙」の外周を汚染し、Nebadon の私たち自身の銀河/地方宇宙へと広がったものである。現在私たちはついに、「光の領域」(Realms of Light) の外周を巧みに侵していた、5億年にわたって蔓延したこの暗黒の終末を迎えつつある。それは破壊と損傷の多くの跡を残し、今や「光の銀河勢力」によって、私たちの銀河系内部が徹底的に清掃されつつあるのだ。(これに関するさらなる情報については Book I, Chapter 10 を見よ。)

地球惑星は、ルシファーの反乱以来、20万年にもわたって「隔離」されてきたので、それはまた、矯正のためにここへ連れてこられる私たちの宇宙内部の、最もネガティブで破壊的な多くの存在者たちにとって、事実上の「収容所惑星/送還センター」としての機能を引き受けてきた。またそれは、動物界から進化とアセンションの長い途を出発する若い魂たちにとって、「種子惑星」としての本来の役目を果たさなければならなかった。彼らは、条件が困難になると暴力的闘争に訴える、いまだ未発達な、動物的な感情的反応をコントロールするすべを、学ばねばならなかった。相互間の多くの抗争を経験することによって、彼らは時間を経て最終的に、「生命という神聖領域」への、より深い敬意を進化させなければならなかった。それこそが彼らを、次なるより高い世界へと引き上げるのである。

地球惑星は、それが Nebadon の、私たちの銀河系/地方宇宙の内部で創造されたとき、新しい生命体と多様な植物がそこから発達することになる、「実験的生態系惑星」としての役目をも与えられた。宇宙を通じて見出される多様な生命体のすべては、「生命の運び手」によって、ある時期に、ここにもたらされている。彼らは、一つの新しい実験的生態系惑星に、新しい改良された生物を、現実に創造する仕事をもつ者たちだった。また、地球惑星に最初に植民した多くの地球外人間たちもいた。彼らは何百万年も前に、特別に選ばれた、志願した「天の庭師」チームとして、銀河連盟の母船でここに運ばれてきた人々である。彼らは、新しい、よりよい種類の植物と動物を、この新しい銀河博物館のために育成するという厳粛な約束をして、ここにやってきた。それは事実上の「エデンの園」が最終的に完成するまで、地球の執事としてここに留まるという、長期「契約」によるものだった。

彼らは結局は、濃密な3次元の物質性という低いレベルへ、ますます引き下ろされていったものの、そしてそれは主として、この銀河系内部の暗黒勢力のさまざまな侵略によるものであったが、彼らはそれでも、何度もここへ戻ってきて自分たちの仕事を果たすという、

「神聖な盟約」を守り抜いた。何万年を経た今も、さらに美しく多様な惑星を完成させようとするエコロジストとして、多くの者がここにいるのである。

銀河系の生物学的陳列館としての、この惑星の役割は、私たちがいま享受している、驚くべく豊かで多様な植物と動物を、説明するものである。私たちの惑星は今なお、人間のこれまでの破壊活動にもかかわらず、銀河系の中で最も美しく緑豊かな「水惑星」の一つであると、他の世界の人々は考えている。将来の地球は、私たち自身が楽しむだけでなく、ここを訪問する他の世界の人々を教育し楽しませるためにも、その生命世界の豊かさと同様性を、今より以上に高め、真の天上的「エデンの園」になるように運命づけられている。

この銀河系の友人たちと協働して、美しい緑の新世界をつくるということのほかにも、私たちはまた、ポジティブ・ネガティブの二重性を解決するという難題を経験したことによって得た教訓から、多くの新しい改良された社会制度をも、発達させることになるだろう。私たちは銀河系の他の場所と偉大な宇宙のために、模範的な博物館世界にならなければならない。地球のこれまでの3次元世界の住人たちは、これまでの純粋な「自己利益」を中心とする様式から、全体の利益のために「他者に奉仕する」という、高い進んだ様式に移行することになるだろう。私たちは、他者の誠実と権利に対する深い敬意を組み込んだ、愛と協力の社会にならなければならない。これは将来には、「他の存在者に踏み込み、あるいは傷つけることを忌避する、可能なあらゆる手段を取れ」という中心的な政治原則をもつことになるだろう。この政治原則は「あなたがしてほしいと思うことだけを、他者に対してせよ」という格言の中に収まっている。